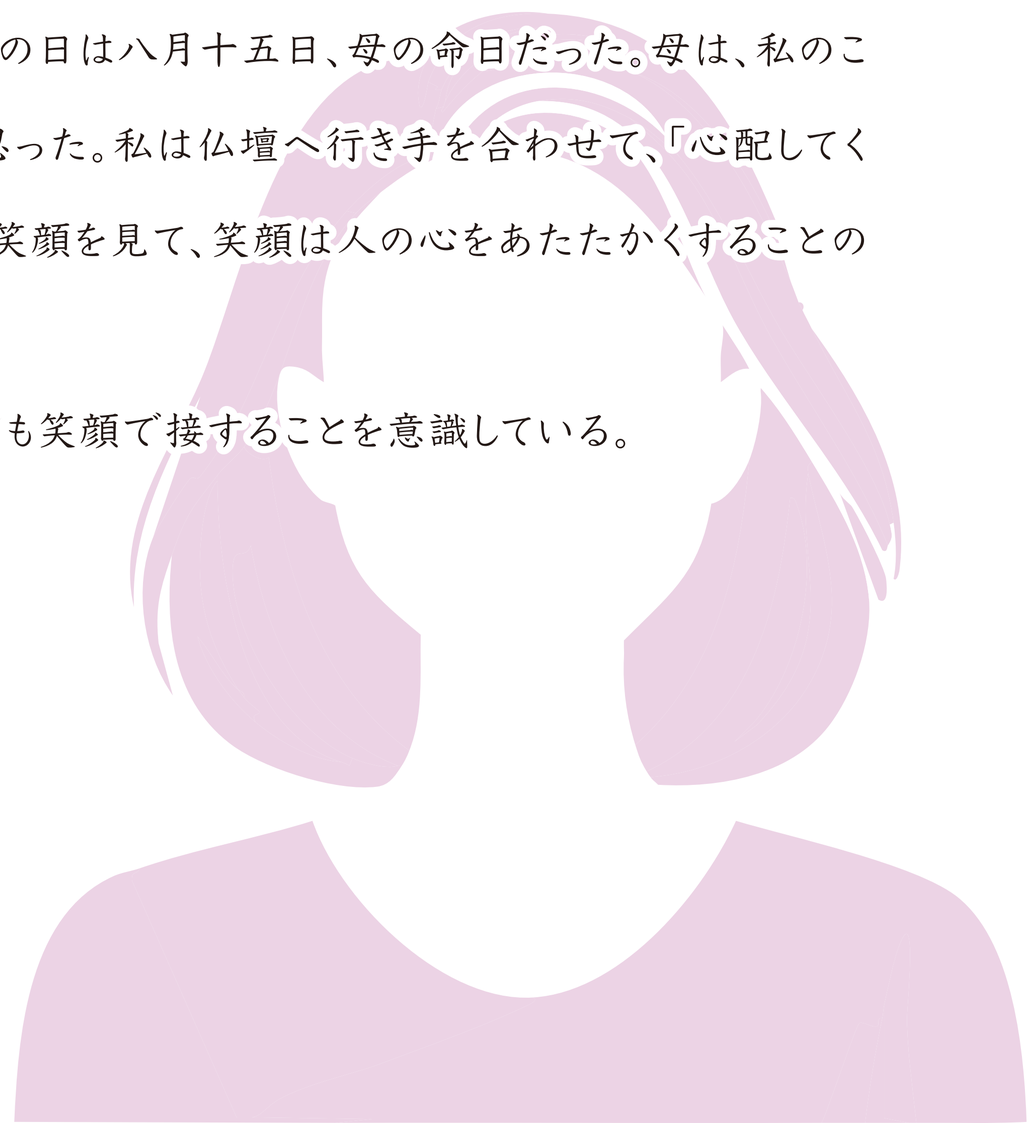
# あの日の母の笑顔

仲倉 玄瞬［愛媛県］

私は小さい頃、父と母を病気で亡くしている。父は、私が産まれてわずか三ヶ月で脳出血を患って亡くなった。そのため声や性格などもわからない、顔だって写真を見て初めて知った。それと違って母は、私が小学一年生の時に癌で亡くなった、そのため顔や性格、声なども覚えている。しかし一番しっかりと覚えているのは、亡くなった時の母の表情だ。その時の表情は、言葉では表しにくいが、とにかく爽やかに笑っていた。私にはその笑顔の中に数えきれないほどの思いがあると思っている。両親がいないということもあり、辛いなとか、寂しいな、などと思うこともあった。そんな時に母の笑顔を思い出すと、「父と母が空から見守ってくれているから明日からも頑張ろう」と、前向きな気持ちにさせてくれる。母の笑顔には、何回も救われた。

私が中学二年生のある夜、いつものように布団へ入った。その日は疲れていたということもあってすぐに寝てしまった。目が覚めたと思ったら、そこには母が立っていた。私はびっくりしていたが、七年ぶりに母に出会えたと思い、本当にうれしかった。その時の母は私に何かを言うわけでもなく、ただただ私を見つめて爽やかに笑っていた。そして気づくと朝になっていた。私はいつもなら夢を見ても次の日には、忘れることがほとんどだ。しかしこの夢はしっかりと覚えていた。なぜ昨日、母が夢に出てきたのだろうと不思議に思っていた。その日は八月十五日、母の命日だった。母は、私のことを心配して夢に出てきたのだと思った。私は仏壇へ行き手を合わせて、「心配してくれてありがと」と呟いた。私は母の笑顔を見て、笑顔は人の心をあたたかくすることのできるうつくしいものだと思った。

私は、夢を見た日から誰に対しても笑顔で接することを意識している。